様式第３号

論　文　要　旨

氏　名	磯部　彩香
タイトル （日英併記）	Attitudes towards people with dementia: a cross‐sectional study comparing dental hygiene students with registered dental hygienists（歯科衛生学生と現役歯科衛生士における認知症患者に対する態度に関する横断研究）

論文の要旨（日本語で記載）

認知症患者に適切な医療や介護を提供するためには，歯科衛生士が認知症に対する偏見のない態度を身に付け，十分な知識を得ることが必要である．本研究の目的は，歯科衛生学生の認知症に対する態度と知識を評価し，その態度と知識に関連する要因を特定することである．

本研究は，2016 年 5 月から 2016 年 7 月の間に，歯科衛生士養成校 3 年次生の歯科衛生学生 191 名と現役歯科衛生士 64 名を対象とし，認知症の人に対する態度と認知症に関する知識および高齢者に対する偏見であるエイジズムを評価するためにアンケート調査を実施した．また，認知症に対する認識に影響を与える潜在的因子を評価するために，参加者の認知症に対する経験に係る情報（「認知症患者との関わりの有無」，「認知症に関する関心の有無」，「3 世代以上の家族構成であるか」，「高齢者との同居経験の有無」，「認知症患者との同居の有無」，「認知症高齢者への歯科診療の希望」）を収集した．

その結果，因子分析により，態度尺度は 4 つの下位尺度（「寛容」，「反発」，「恥」，「受容」）を持つことがわかった（Cronbach α，0.652-0.820）．知識尺度の全項目 Item-Total 相関係数はすべて 0.3 を超え，Cronbach α は 0.827 であった．認知症に対する経験に係る情報に関しては，すべての項目において現役歯科衛生士は歯科衛生学生に比べ「はい」と回答した者が有意に多かった．現役歯科衛生士は，より良い態度と知識を示していたが，エイジズムが高いことがわかった．重回帰分析により，認知症に対する態度は，歯科衛生士としての経験年数，エイジズム，認知症への関心，および認知症患者の治療に携わりたいという欲求と相関していることが明らかになった．

現役歯科衛生士は歯科衛生学生と比較してより積極的でより多くの知識を有していた．認知症に対する態度は認知症に対する知識ではなく，エイジズムと有意に正の相関があった．